

創意工夫！

コロナ禍  
でも・・・

◇例年であれば、この時期は春への期待を胸に、忙しい中にも児童・生徒の成長を感じ、一年のまとめをする学校であったはずですが、今年は例年とは異なった年度末を迎えていることと思います。

◇今年度はコロナ禍の中、学校では多くの制限を受けながら教育活動を展開してきました。年度初めの休校措置に始まり、学校行事、各種大会の取りやめ、授業内容の変更、保護者参観の自粛、先生方の研修会の削減等々。

◇しかし、そのような中であっても、児童・生徒の歩みを止めることができないのが我々の責務です。「できない」を「どうすればできるか」に思考を転換し、学習活動を工夫している様子を紹介します。

立春が過ぎ、寒かった冬も一步一步春を呼びよせている今日このごろ。この句が浮かんできます。

『梅一輪 一輪ほどの あたたかさ』  
～服部嵐雪～

梅の花が、一輪、一輪花咲くごとに春になっていく様を詠んだ句ですが、春の香りや風の様まで感じてしまいます。心が晴れやかになっていくのです。コロナ禍が少しずつ収束に向かい、晴れやかになることを祈ります。



【音楽：鍵盤ハーモニカ授業の工夫】



〈鼓笛隊の練習〉

合唱や管楽器等の近距離での学習活動を制限されている中、大型のキーボードや中学校の合唱部から借りた小型のキーボードで鍵盤の練習。密集しないように大きなホールで練習です。🎵



安心安全のなかで！  
養護教諭による保健指導

児童・生徒の中には「コロナになってしまうのが怖い」と不安になっている子も多いと思います。子どもたちが少しでも安心して学校生活を送ることができるよう養護教諭の保健指導も行われています。職員全員でコロナ禍対応に向かう姿勢が見られます。

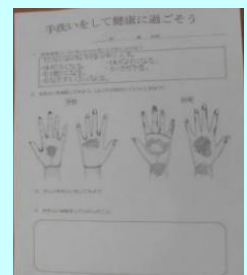
ブラックライトを使って、手の洗い方をチェック！



きれいになったかな？

おお～、きれいになってる～！

ええ～、ショック！  
なんかまだ光ってるう～  
もう一回、洗ってくっぺ！



《手洗いチェック表》



今年度はコロナに振り回された一年ではなかったでしょうか。先日の校長会でもコロナに関する話題が挙げられ、改めてコロナ禍対策への方針が示されました。

～教育長挨拶より～

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの学校行事や大会の中止、または、制限を加えた形での実施となったが、次年度の計画については各行事や大会が実施できることを予想しながら立案してほしい。実施が困難な状況になった際には、その時点で判断し、計画見直しを図るようにしてほしい。児童・生徒たちが楽しみにしている行事も多いことを忘れないでほしい。

～学校教育課長より～ (抜粋)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、今後はどの学校、誰にでも起こりうるコロナウイルス感染症である。その際、次のことについて、改めて心にとどめてほしい。

- ① SNS 等による真偽の定かでない情報に惑わされない。
- ② 兄弟等がいる場合は、学校間の連絡を密にし、同一歩調でかかわる。
- ③ PTA 会長を中心とした PTA 役員への連絡と協力体制の強化を図る。
- ④ 罹患した児童・生徒を守る。いじめや不登校の対象とならないよう、『寄り添う心』で対応してほしい。

「主体的・対話的で深い学び」に向けて ～雑誌記事より～

**世の中には、課題が山のようにあるので、課題を発見し、解決することは素晴らしいことである。一方で良さもたくさんある。良さを発見し、認め合うことも大切である。**

**課題に目を向けることで「どう行動するか。」を問う。**

**良さに目を向けることで「どうあるか。」を問う。**

**どちらかを正論にするのではなく、両者を問いつつ、人びとが生きやすい社会を築いていきたいものである。**

**世界に憎悪や分断が広まっているが、正論がそれらを助長する愚は避けたい。正論の危険性に気付く感性や異論を受け止める理性を育てる教育が必要となってきた。**

～内外教育 2月2日付けより～

「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた授業改善を思うとき、自分の考えを授業の中で安心して発言できることは、社会に出てからも多様な考えに気付き、受け入れられる心の素地づくりにつながるのではないかと考えます。一つのことを多面的にとらえ、多様性を受け入れられる心を身につけられたらと思います。

3学期は一年間のまとめの時期であるとともに、次の学年へ引き渡す準備の時期でもあります。仲良くなった友だち、先生との別れもあるでしょう。子どもたちが、この一年で得た力を信じ、自ら動けるよう『守・破・離』の「離」をもって子どもたちの背中を押し、新しいステージへの準備をさせたいものです。

